

# ビジネスチャンス

# 2 2011

次なる成長を狙うすべての起業家を応援する 起業&新規事業の専門情報誌

平成大不況下の“儲かる商材” “売れる営業手法”がわかる!

# 中小企業・ベンチャーの **売れた!** リアル ストーリー



**CHANGE MAKER**  
世界最大のビジネスマッチングサービスを日本に売る男  
アリババマーケティング  
山本康二社長

好評連載

**ビズマッチ**  
Business Matching

代理店 ×12 FC ×10  
求人 専門家 ウリコミ



レイズインターナショナル  
西山知義社長の「不撓不屈の挑戦記」

新潮流～この人に聞く～  
「世界最大のレンタルオフィス 日本展開加速の理由」  
日本リージャス 呉偉会長

トークセッション



**起業家決断の瞬間**  
フォーバル 大久保秀夫会長  
×  
ネクスト 井上高志社長



亀岡太郎の  
天下取り対談  
ゲスト：ランシステム 清田文孝社長

- 世界を変える仕事 - 社会起業家の夢と現実 -
- 国際イベント情報
- 珍商売探偵団
- 新東京WORK STYLE  
Rush Japan 齊藤多可志社長

## 愛犬の死を機に獣医志し 自社ビルの総合病院を運営



ホズミ  
山村穂積社長

日本で初めて動物病院を法人化し、動物病院アニホスを運営するホズミ（東京都北区）は、5階建ての自社ビルに23人の獣医を抱える。山村穂積社長は幼少期の愛犬の死をきっかけに、より多くの動物を助けることができる環境を確立すべく獣医業界の発展に尽力している。動物好きな家庭で生まれ育った山村社長は、愛犬であるスピリッツの世話をするのが日課だった。小学三年生の頃、世話中に少し目を話すと、愛犬が隣家の大型犬にかまれてしまったのだ。だからだらと血を流して倒れる愛犬の姿に戸惑いながらも近所の家畜病院まで連れて行ったが、願いは届かず愛犬は助からなかった。「悲しくて、助けてられなかったことに悔しい思いをしました。適

切な処置をし、命を落とす動物を少なくしたいと思ったのが、獣医を志すきっかけでした」

高校を卒業すると、日本大学生物資源学部で学んだ。同級生のほとんどが製薬会社や農水省に就職していく中、山村社長は意志を曲げず動物の専門医になることだけを目標にした。「動物病院」さえ一般的でなかった時代、卒業の3日前にやつとの思いで就職先の動物病院が見つかった。ほぼ「弟子入り」という形で勤務しスキルを身につけると、2年後に開業し自身のサロンを品川にオープン。はじめの1カ月は全く収入がない状態が続いたが、宣伝活動に力を入れることで徐々に受診者が増加。なんとか状況を改善することに成功した。

36歳の頃、大学卒業後にお世話になった恩師のサロンを引き継ぐこととなる。そこで板橋区に引越しをし、さらに患者が増えたことから5年前に同じ地域に自社ビルを設立した。ビル丸ごと1棟の動物病院は全国でも珍しく、現在は23人もの医師を抱える大型病院へと成長した。現在診察や治療は若い医師たちに任せ、山村社長は経営に専念している。「あとの世代に残したいと思い、

自社ビルを建てました。技術を磨きながら正しく患者さんと接していれば、周りが当院を必要としてくれます。自然と口コミや紹介で来客数が増え、成長することが出来たのだと思います」

多くの優秀な獣医が活躍し、より多くの動物を助けることのできる環境を山村社長はつくりだした。現在は犬や猫を連れた人が毎日150組以上訪れている。

## 女性経営者交流の場をつくり 協力しながら成長を目指す



ナチュラルック  
菅原智美社長

女性経営者の交流会「エメラルド倶楽部」は、現在200人以上の会員数を誇る。運営するナチュラルック（東京都新宿区）の菅原智美社長は、自身が経営者として社会で活躍しているうちに、まだまだ女性経営者は少数派であるという現実を実感。女性が働きやすい

社会をつくるために、共に成長していく場を設けたのだ。

菅原社長が起業してまず始めた事業はビジネス라운ジの運営。会社員時代に営業で外回りをしてきた菅原社長は、空き時間に女性でも気軽にくつろげる場所が必要だと考えたのだった。漫画喫茶がはやり始めていたが女性にはなかなか入りづらい場所だという認識が強かったため、オープン後は順調に会員を獲得していった。

起業して2年が経とうとしていた頃、同じく「場所を提供する」という概念から、今度は自分と同じ女性経営者が集まれる場所を作ろうと考えた。ビジネスに関する勉強会の開催やビジネスマッチングなどだけでなく、ランチ会や研修旅行など、楽しみながら交流を

百人百通りの  
起業  
ストーリー

**ビル清掃のバイトからチャンス掴み  
廃棄物業界のデジタル化に挑む**



**グリーンシンク  
山田善紀社長**

起業のネタを探すために東京法務局や不動産会社など複数の業界で仕事をしたグリーンシンク（新潟県新潟市）の山田善紀社長は、ビルの清掃員としてのアルバイト

深める企画も盛り込まれている。「コミュニケーションは絶対にこの世からなくならないものなのでそれに関わる仕事をしたいと思いました。ただ個人でビジネスをしているだけでなく、経営者として会社をさらに成長させていきたいと意欲のある女性ばかり集まっています」

今後は大阪にも支部を作り、さらに全国の女性経営者が互いに協力して活躍していける場を設けていく方針だ。

の中にそのヒントを見つけることが出来たという。

廃棄物の重さを体重計のような機械で量り、伝票に記録していく。このアナログな毎日の作業をデジタル化していく過程に起業のチャンスを見出した。廃棄物収集業界に大手企業が存在していないことは、これから勝負する余地がある

と見たのだ。

当時東京都内に住んでいた山田社長だが、活動の拠点を新潟に移した。地方の方が不法投棄などの環境問題に積極的に取り組んでいる現状があり、活動への賛同を得やすいと考えたのだ。新潟県から補助金を得ながら研究・開発に3年間の月日を費やした。商品リリース前から話題を呼び多くのメディアに取り上げられたことで、計量器メーカーとの技術提携にも繋がっていった。

完成したのは、廃棄物を種類別に計量しデータで管理するシステム「エコチューブ」。

その変動を数値化し、処理コスト削減を実現するためのコンサルティングも同社が同時に行う。現場ではお年寄りや外国人が多く働いているということから、タッチパネルを採用し操作を簡略化させた。

「エコチューブ」で計量している様子



開発後は展示会などを通じて大手企業と契約が実現。現在は大型ショッピングモールや大手メーカーのビルなど、約200カ所に300台が設置されている。

近年はエコブームで、廃棄物をいかに再利用するか、環境に負担をかけずに処理するかということに注目が集まっている。「排出量を数字で認識することで、さらに減量させる手段を考えるきっかけになり、実際に2〜3割の発注抑制になっています」

エコで企業のイメージアップにつなげたいという面からも、このシステムの需要の高まりが感じられる。今後は中小企業向けにもシステムを開発していく方針。近い将来は各企業の環境貢献度を示す指標を世の中に配信していきたいという。

株を買うなら

朝イチ取れたて情報を毎日更新中!

株特急と検索してください。

株特急

検索

今すぐアクセス!

“株特急”で情報収集

運営会社:株式会社 亀岡大郎取材班 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15 TEL.03-3543-6988

<http://www.kabutokkyu.com/>